

大河ドラマの撮影に使われた物見櫓や兵舎

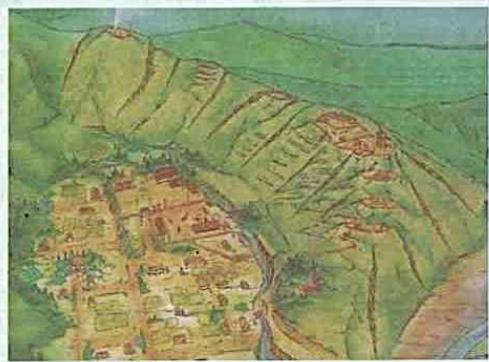
荒砥城は、別名砥沢城とか山田城とも呼ばれ、応仁時代、山田信兼が築いた山城のことである。千曲川流域を上田方面から長野方面まで一望でき、冠着山からの尾根の東端の険峻な断崖、そして北側は切り立った絶壁、下は荒砥沢の要衝にして要害なる地、城山に築かれた戦国初期の模式的な山

戸倉上山田温泉地の西方山腹「戸倉上山田」の広告灯が見える城山の頂上に、中世戦国時代の山城荒砥城跡群（市指定文化財）を、可能な限り史実に基づいて復原して城山史跡公園を造った。

**もうと知りたい
ふること**

19

荒砥城跡 山史跡公園



当時の様子（想像図）

て引いてきた。

この荒砥城を築いた山田氏は、清和源氏信濃村上氏の為国の子中綱（仲経）が、山田に分かれて住み、地名の山田を名乗つた。山

田仲綱は、山田地方を開拓して莊園とし、庄司となつた。そして、文治年間頃はカマヤ（構屋敷・釜屋）に居館していた。

山田仲綱の子山田為村は、専ら莊園の拡大と文化の進展に活躍した。例えば十二面觀音を古屋から移遷し氏寺とし、宇佐八幡を氏神として拝した。そして、建久八（一一九七）年、源頼朝善光寺参詣の折、その活躍忠勤を賞賛され守護不入の大特典を賜つた。

山田為村の曾孫山田信

兼は応仁時代（一四六七）一四六八）に城山に荒砥城を築城し、金屋から城腰に移つた。そこで、二の郭には物見櫓・兵舎を置き、周囲には石積と柵を施した。本郭には館・兵舎を設け、その裏には掘割を掘つて固め、その裏には掘割を掘つた。また、水路については、永正元（一五〇四）年頃、城腰（天



城山史跡公園案内図

に通路を蛇行させて穿き、容易に這い上がりやすいように石積をし、要所要所に門を配した。そして、二の郭には物見櫓・兵舎を置き、周囲には石積と柵を施した。本郭には館・兵舎を設け、その裏には掘割を掘つて固め、その裏には掘割を掘つた。また、水路については、永正元（一五〇四）年頃、城腰（天

天文の初（一五三一）年頃、葛尾城主村上顯国は、武田軍の進出に備えて、小県郡神科村戸石に戸石城を構えた。こ

れを継いだ村上義清は、荒砥城を築いた。この山城は、本郭・二の郭・三の郭・四の郭とあり、さらに、本郭の背後冠着山方面への尾根づたいに、砦や證城などを配した、複合連郭式の実に堅固な構築である。急峻な斜面に這い上がりやすいように石積をし、要所要所に門を配した。そして、二の郭には物見櫓・兵舎を置き、周囲には石積と柵を施した。本郭には館・兵舎を設け、その裏には掘割を掘つて固め、その裏には掘割を掘つた。また、水路については、永正元（一五〇四）年頃、城腰（天

葛尾城主村上顯国は、武田軍の進出に備えて、小県郡神科村戸石に戸石城を構えた。この山城は、本郭・二の郭・三の郭・四の郭とあり、さらに、本郭の背後冠着山方面への尾根づたいに、砦や證城などを配した、複合連郭式の実に堅固な構築である。急峻な斜面に這い上がりやすいように石積をし、要所要所に門を配した。そして、二の郭には物見櫓・兵舎を置き、周囲には石積と柵を施した。本郭には館・兵舎を設け、その裏には掘割を掘つて固め、その裏には掘割を掘つた。また、水路については、永正元（一五〇四）年頃、城腰（天

天文の初（一五三一）年頃、NHKの大河ドラマ「風林火山」、「江」などのロケに使われ、観光のスポットになつたりしている。